

不定期便『おじさんの言いたい放題』

昔むかしのお話です。

昔むかし、あるところにて、算数がとても苦手な子どもがいました。名は「ロシ」、みんなからは「ロ坊」と呼ばれておりました。

あるとき、「ロ坊は初めて算数で82点を取りました。うれしくてうれしくて、赤で大きく82点を書かれたその答案用紙を強く握りしめ、お家へ持って帰りました。よほどうれしかったのでしよう。「ロ坊は家に着くやいなや、履物も脱ぎ捨てて、おどっつあん、おっかさんのもとへと一目散。差し出された答案におどっつあん、おっかさんは何も言わずに見入っていました。もちろん、「ロ坊は得意満面。鼻の穴も大きくふくらんでいます。」

「さあ、まずはおっかさんが口を開きました。『ほかのみんなはできていたの？満点の子、たくさんいたんじゃないの？』おどっつあんも始まりました。『平均点は何点だ』」

「ロ坊は答えました。『93点』それはそれは小さな声でした。」

『へえくっ、おかしいと思った。それじゃ、おまえ平均以下じゃないか』続けざまにおっかさんの手厳しい追い打ち！

『私もそうよ。おかしいと思ったわ。あなたがそんな点とれるわけがないわ。問題が簡単すぎよ』「ロ坊はただただ、苦手な算数ができるようになったことがうれしかったのですが…。」

時を同じくして、一人の仙人が小高い岩場から、その様子を見ておりました。仙人には家の内が見えていたのでしょうか。

『おっおう、あの親はあの子を相対的・偏差值的思考で見ているのう。子は絶対的・個人的思考をもって、喜んでもらいたかったんじゃない』『評価のものさしが違っておるのが不幸じゃない』仙人にしては、めずらしくため息をつきました。

そんなことがあり、「ロ坊は自分がどんなにがんばってもだめさ。周りの人に勝たなくっちゃだめなんだ。そう深く考え、落ち込みました。」

そして数ヶ月がたち、「ロ坊は勉強という世界から遠ざかっていきました。」

この話、まあ、親御さんに全く責任はないとは言いきれませんが、そうだからといって周りから逃げ出してばかりもいられません。勝ち負けだって、すべてが悪いとは限りませんもんね。ライバルがいるからこそがんばれるってことだってありますし。だけど、周りばかりを気にし、勝てば自尊心を広げ、負ければ自己弁解、相手への憎しみ、自分への劣等感をつのらせる。これはいただけませんな。

人のせいなんかにはせず、自分が自分の目標に向かって、ひるまず自覚を持って進めばいいんだよ。幸せって案外そんなところに転がっているんじゃないかな。

仙人はそう思ったにちがいありません。

最後までお付き合いをいただき、ありがとうございます。

中央塾-ようこそ

検索

URL;<http://www.chuuou-juku-nettodegenki.com/>